

太崎観音

慶長年間（1596～1615）の頃、牛根地頭だった平山古河守半助・半兵衛兄弟が、百引観音平より風光明媚な現在の場所に遷したといわれています。観音は10センチくらいの小さなものですが、人々の信仰が厚く、毎年旧暦六月十七日には、この観音岬でお祭りがあり、村中の善男善女がお参りして終夜賑わったとされています。

この地は牛根地区の中でも絶景が望める場所の一つで、カルデラ時代の溶岩が突出しており、磯馴松とともに桜島を一望にできます。



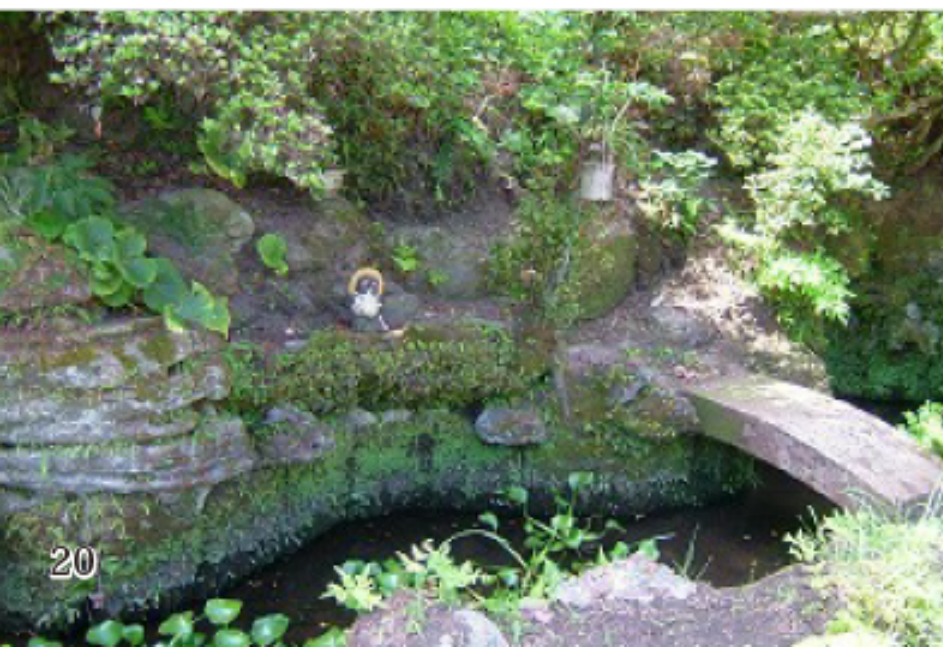
居世神社六月灯

広田家庭園

広田家は牛根麓にあり、藤原氏の後裔とされています。

広田家の庭園は、長さ10メートル、幅は広いところで3メートル、周囲には様々な形の岩が巧みに配置され、中央には石橋がかかっています。江戸時代初期、乗舟寺の和尚の手によって造られたといわれています。当時の太守、島津重豪は、牛根麓の陵に参拝の折、広田家に立ち寄り庭園をいたく賞賛したといわれています。

また、昭和四十二年（1967）、鹿児島大学の西田教授の鑑定によると、庭木の主木となっている梅木の大きさ、池にかけられている石橋など、仮山石組座を主景とした風影式で、全国的にめずらしい貴重な文化財であると認定されています。



《 Story6 》

先人の想いを「つなぐ」松ヶ崎

松ヶ崎地区には、様々な時代に遺された史跡が数多く点在します。
それは、地元住民が先人を敬い、松ヶ崎の歴史に誇りを持っているからこそ、これからも次の世代に伝えるべく、歴史物語とともに守り続けていきます。